

ふくい^①の森林・林業の未来を切り拓く基本計画

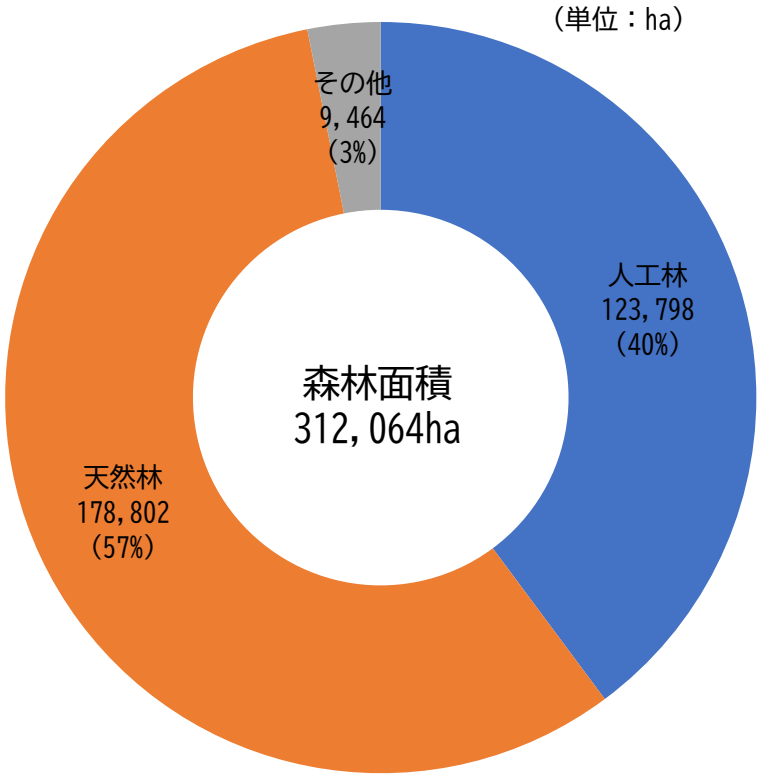
[令和7年～11年度]

参考資料

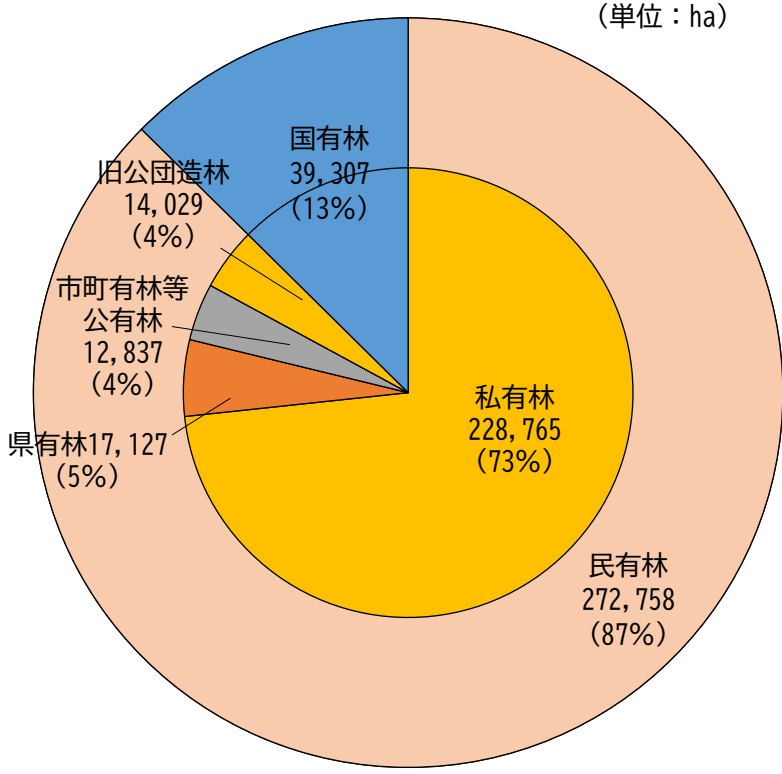
福井県の森林・林業・木材産業の現状

- 本県の森林面積は312千ha、県土の74%（全国平均67%）
- 所有形態別は民有林が273千ha(87%)、国有林39千ha（13%）
- 森林蓄積量は6,975万³m（人工林4,709万³m、天然林2,267万³m）

○森林面積（人・天別）

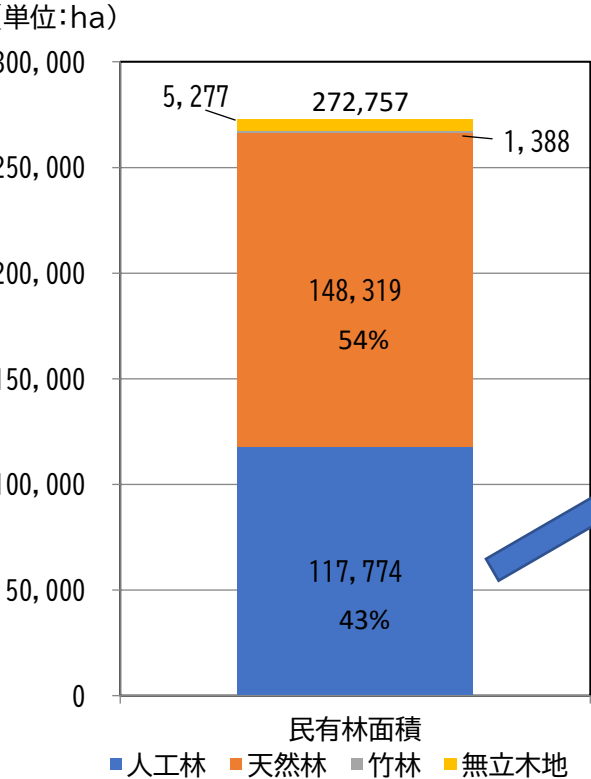


○森林面積（所有別）

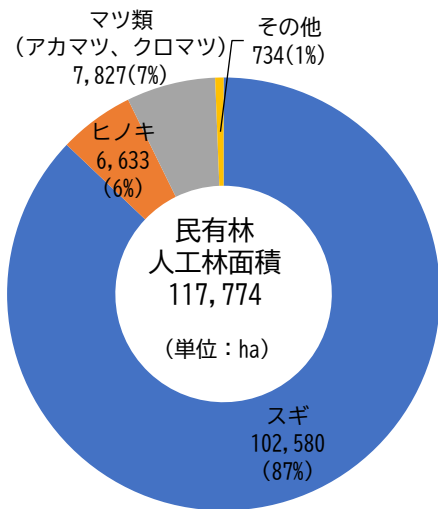


- ・ 民有林面積273千haのうち人工林は118千ha、人工林率は43%（全国平均40%）
- ・ 人工林のうち9割がスギ林（103千ha、4,254万m³）
- ・ 人工林蓄積は毎年約70万m³増加
- ・ 近年の素材生産量は年間約25万m³であり、森林資源はまだまだ活用可能

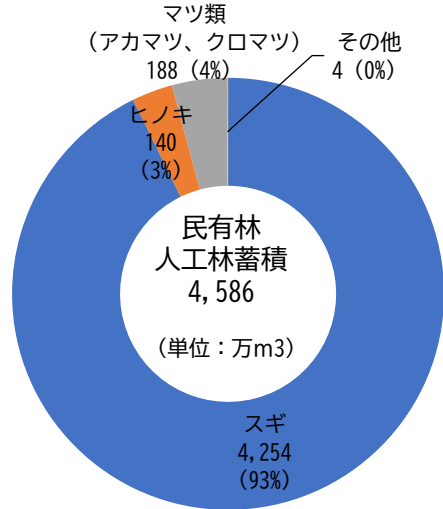
○民有林面積（人・天別）



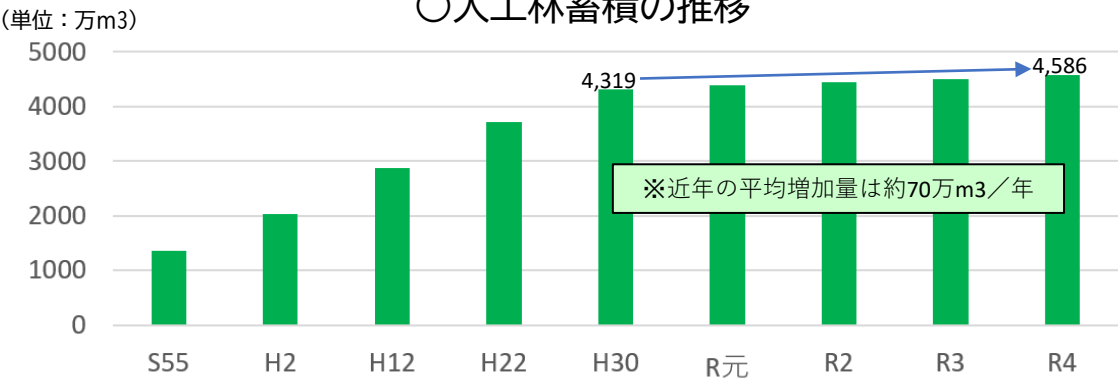
○民有林人工林面積（樹種別）



○民有林人工林蓄積（樹種別）

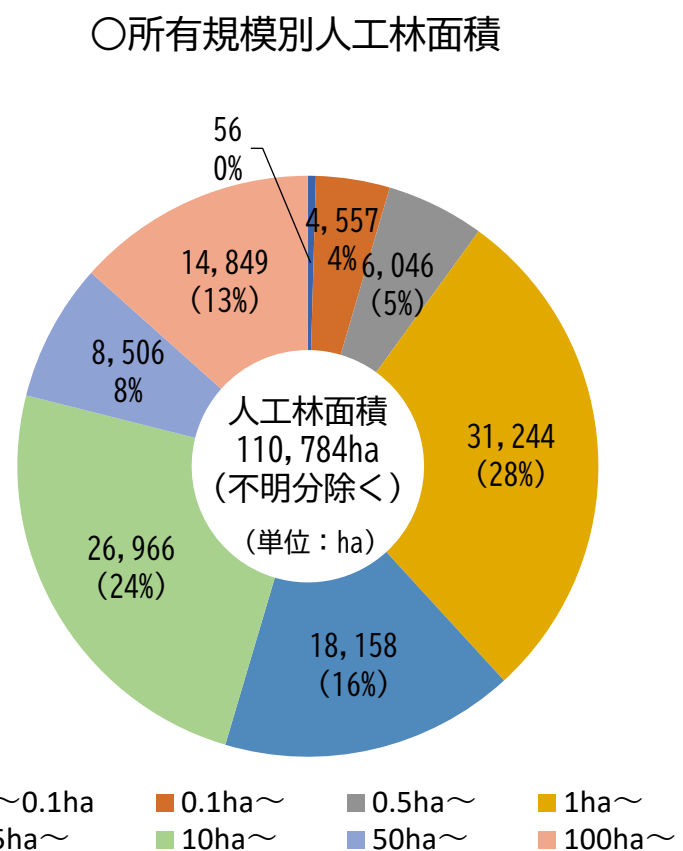
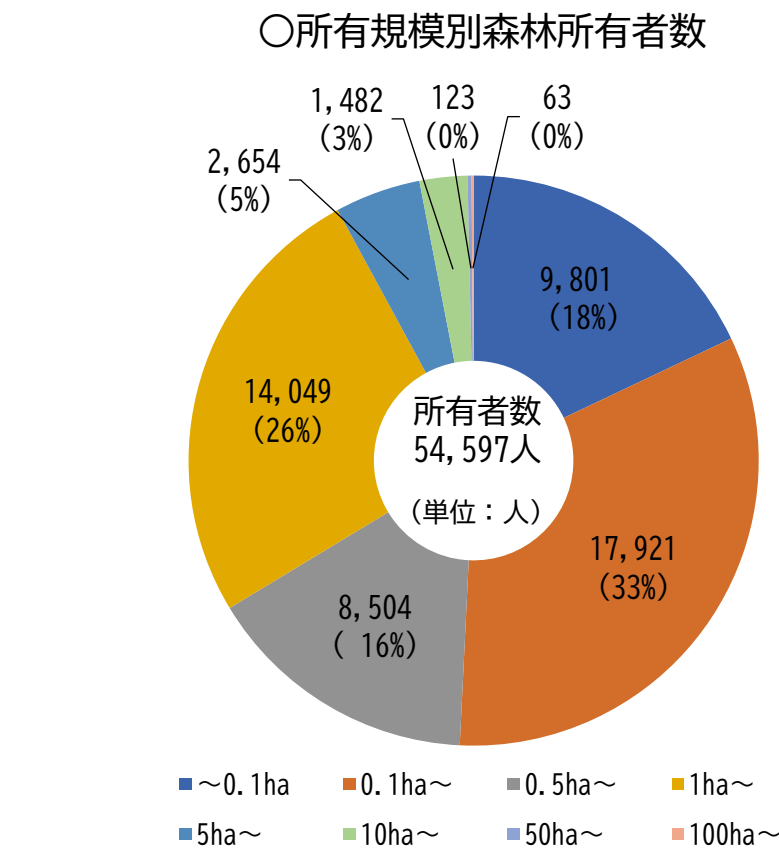


○人工林蓄積の推移

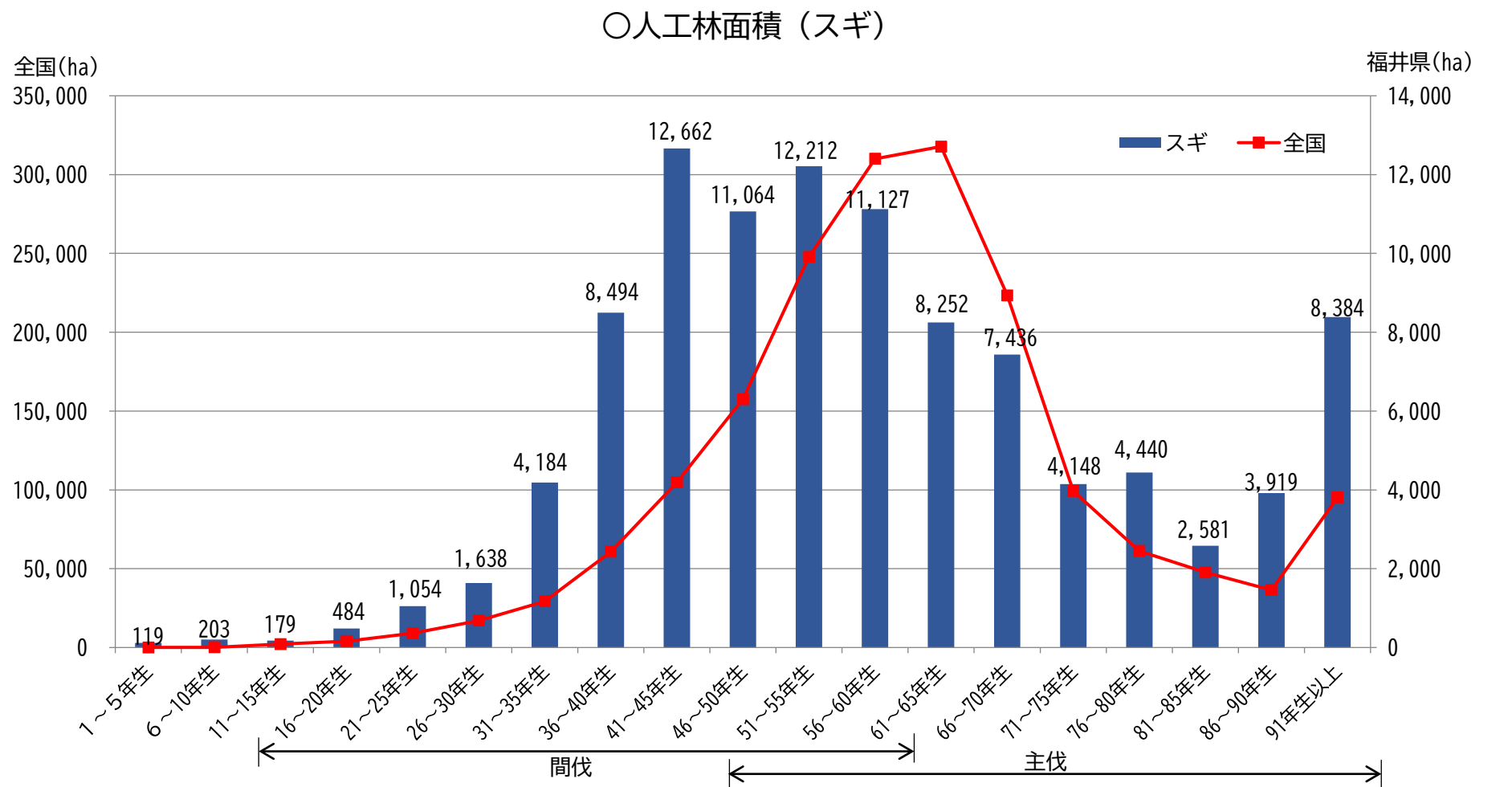


森づくり課調べ。R 5年3月31日現在
四捨五入のため合計は必ずしも一致しない

- 1 ha未満の森林所有者は県全体の所有者数の半分以上を占めるが、面積に占める割合は約1割程度であり、小規模所有者が多数
- 分収造林を実施している大規模所有者の県および国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センターで県内人工林の約2割を占める

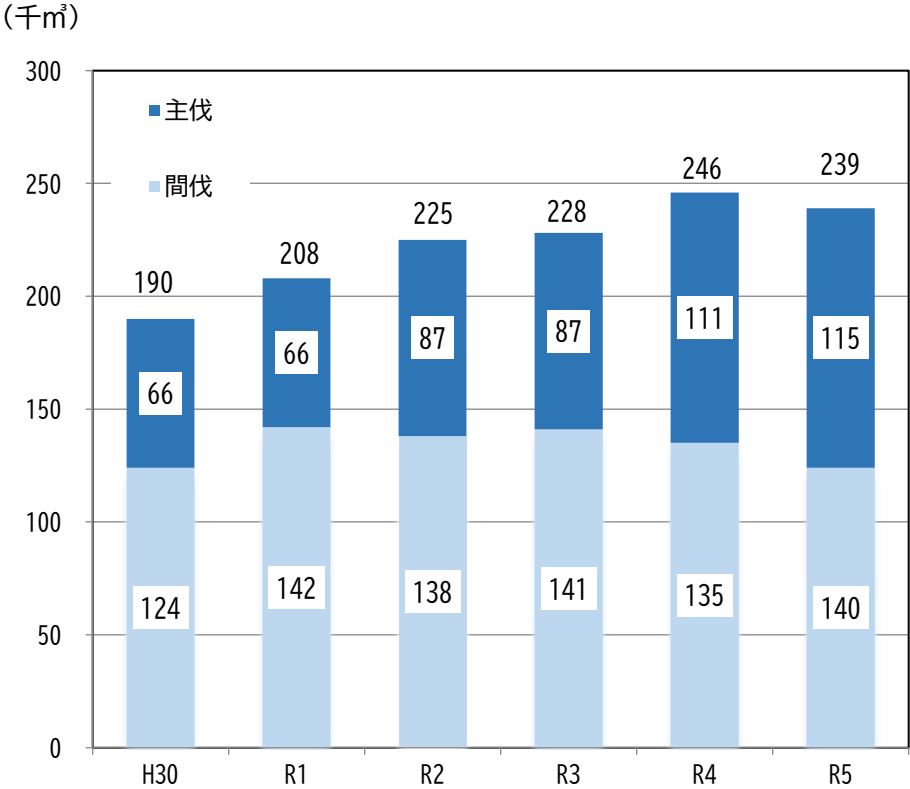


- 人工林は36～60年生の面積が多く、全国に比べ若齢であり、間伐が必要な人工林（11～60年生）が約6割
- 柱などとして利用可能な人工林が年々増加（46年生を超える人工林が約7割）
- 今後、持続的な森林経営を実現していくためには、若い森林への更新により人工林の齢級構成の偏りを小さくすることが不可欠

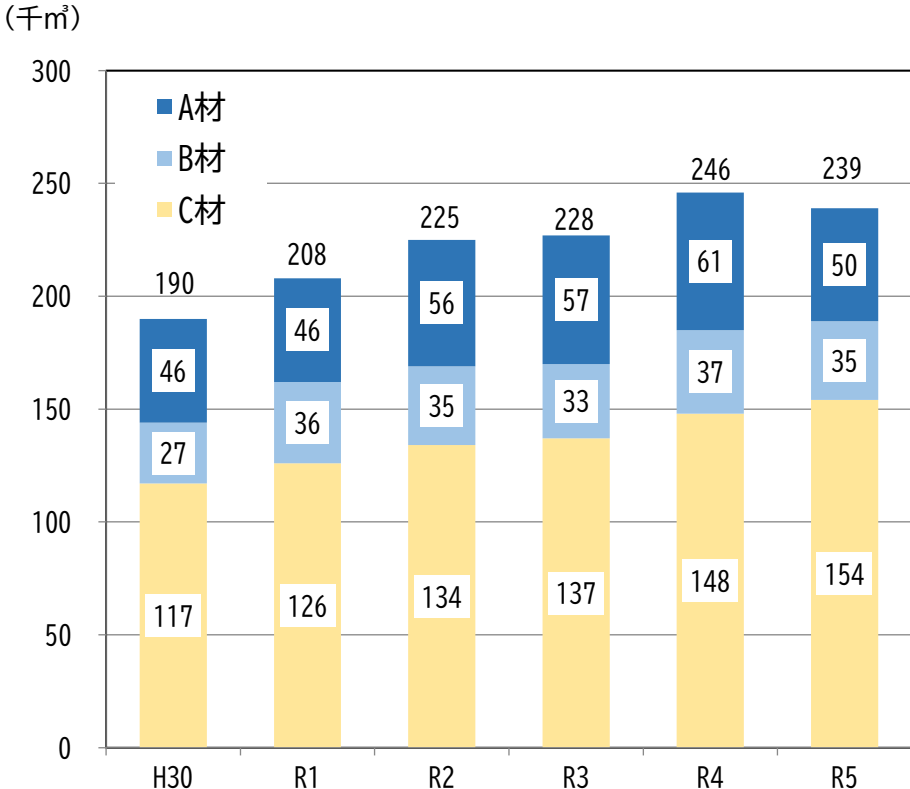


- 近年、搬出間伐の事業量の増加や販路の拡大により素材生産量は増加傾向
(H30:190千³m→R 5 :239千³m)
〔木材(原木)の主な出荷先〕
- A材は、県内原木市場への出荷が中心
- B材は、県外の合板工場への出荷が中心
- C材は、県内バイオマス発電への出荷が中心 (H28稼働開始、原木調達を開始したH26から増加)

○主間伐別

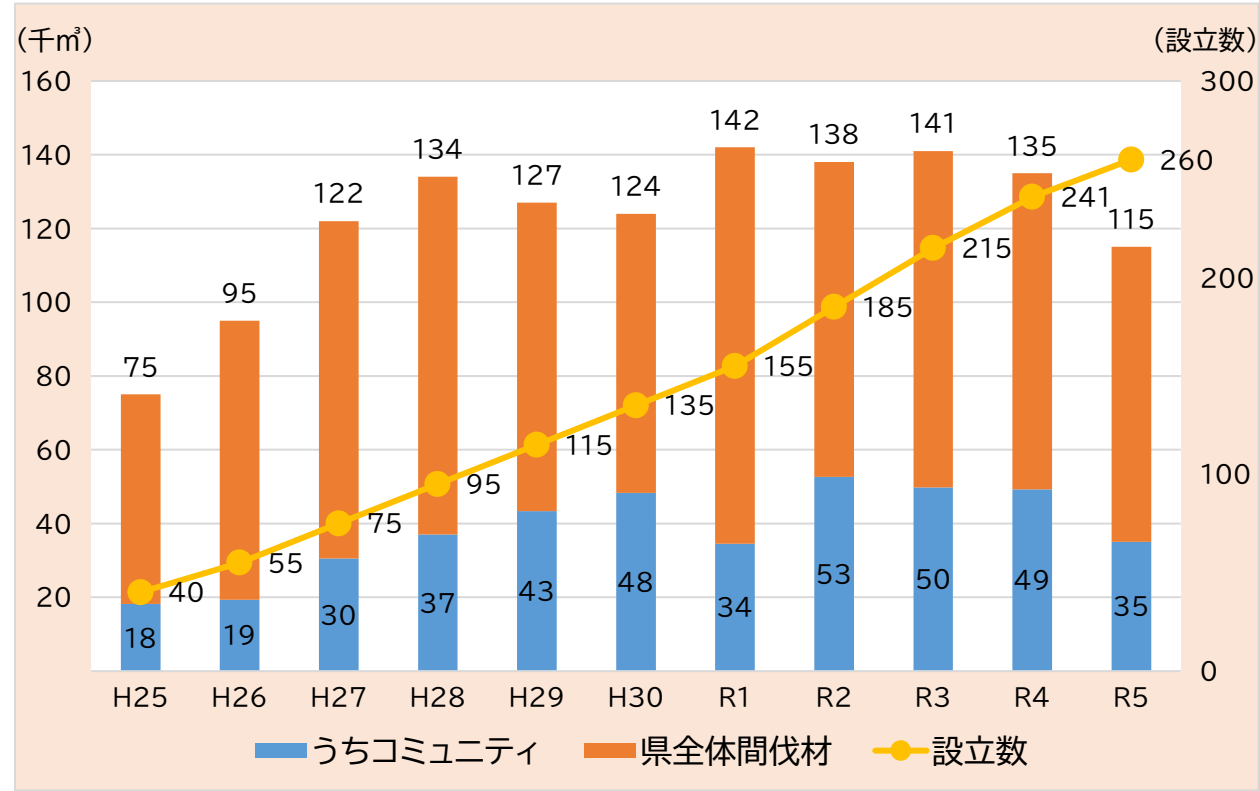


○A、B、C材別



- ・ 集落を単位として森林所有者等が木材生産組合を設立し、境界確認や作業道の線形等について合意形成
- ・ 間伐等による木材生産の計画を立てることで、計画的な生産を推進

○年度別設立数(累計)と間伐材生産量に占める
コミュニティ林業での生産量



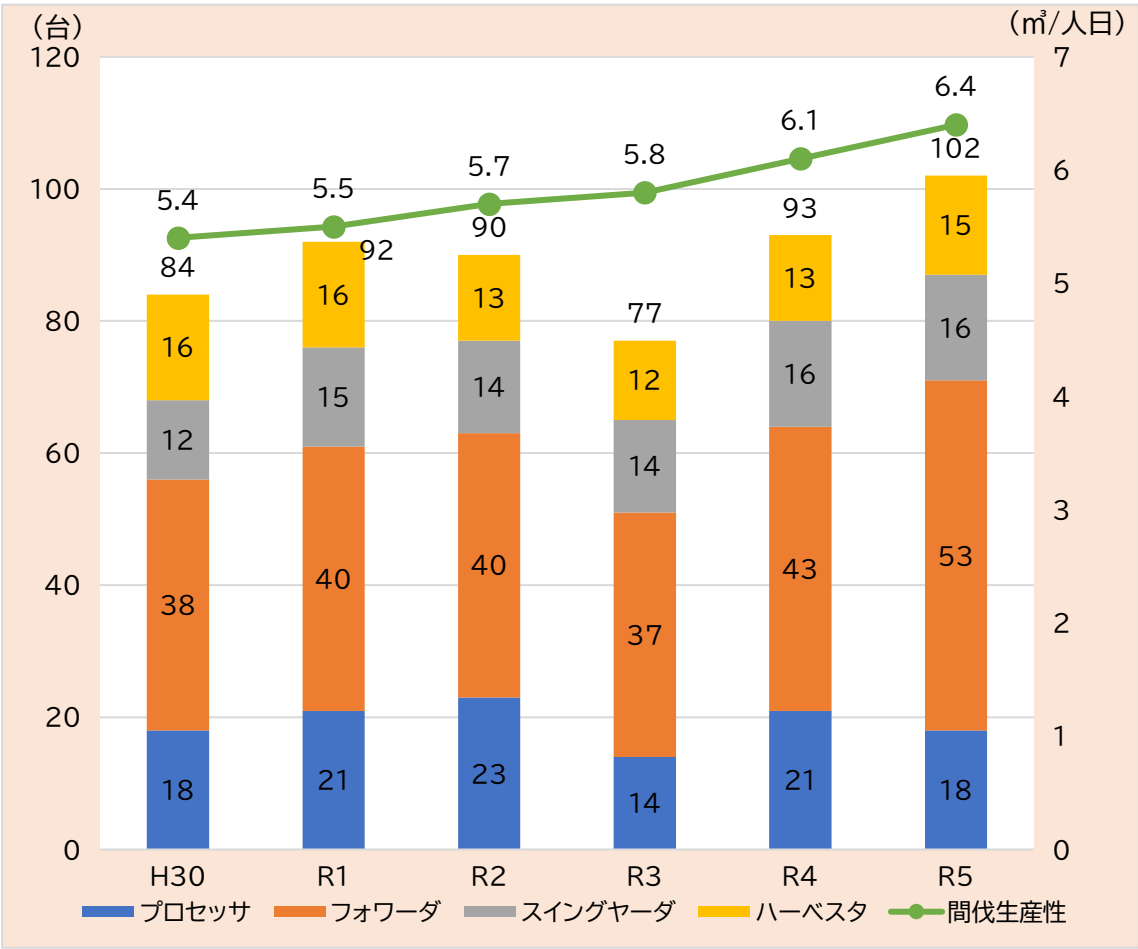
【合意形成】



【森林資源・境界調査】

- ・ 高性能林業機械の台数の増加により間伐の木材生産性は向上
- ・ 高性能林業機械のうちフォワーダの台数割合が多い

○年度別高性能林業機械稼働台数および間伐材生産性の推移



※リース等含む



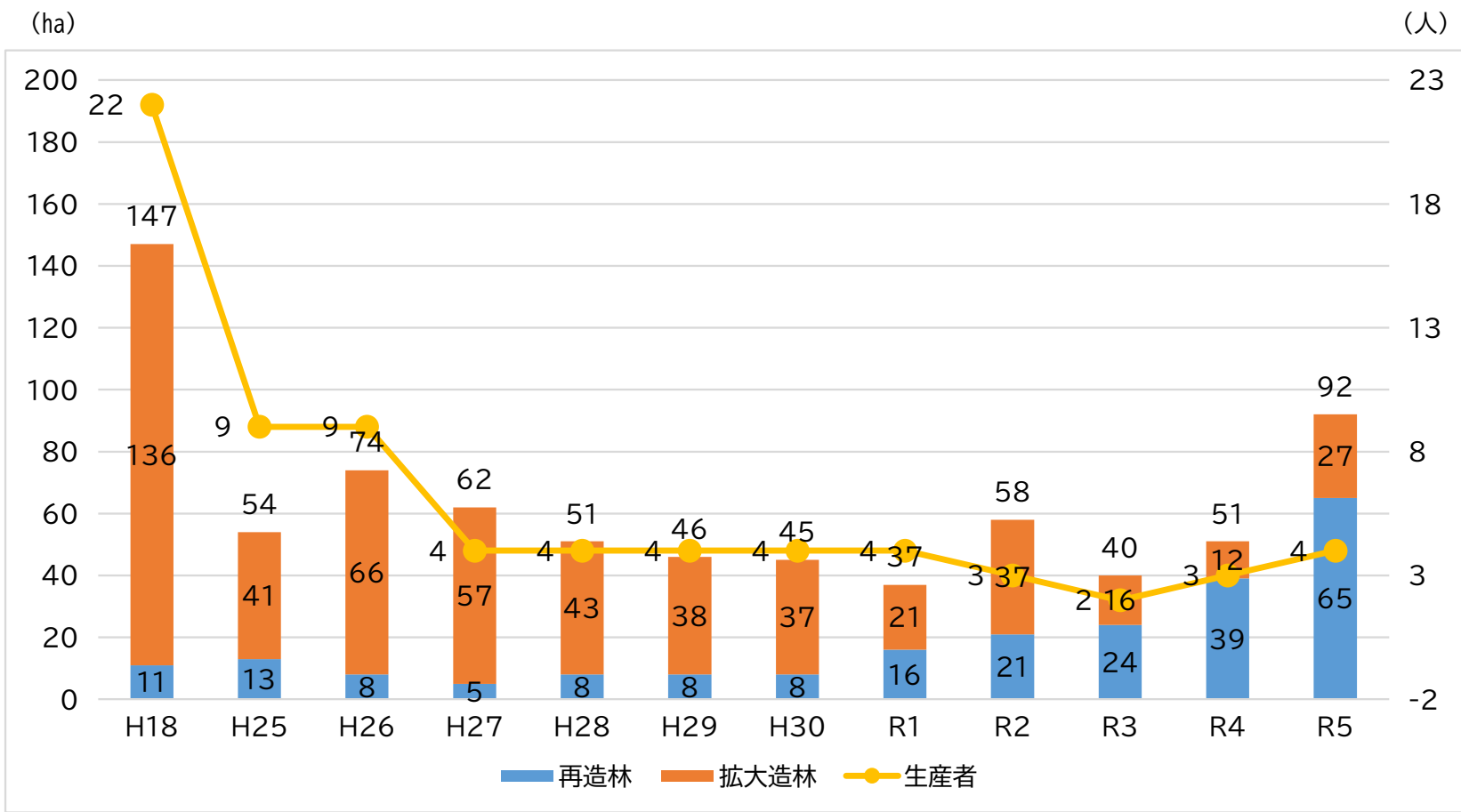
【プロセッサ】



【フォワーダ】

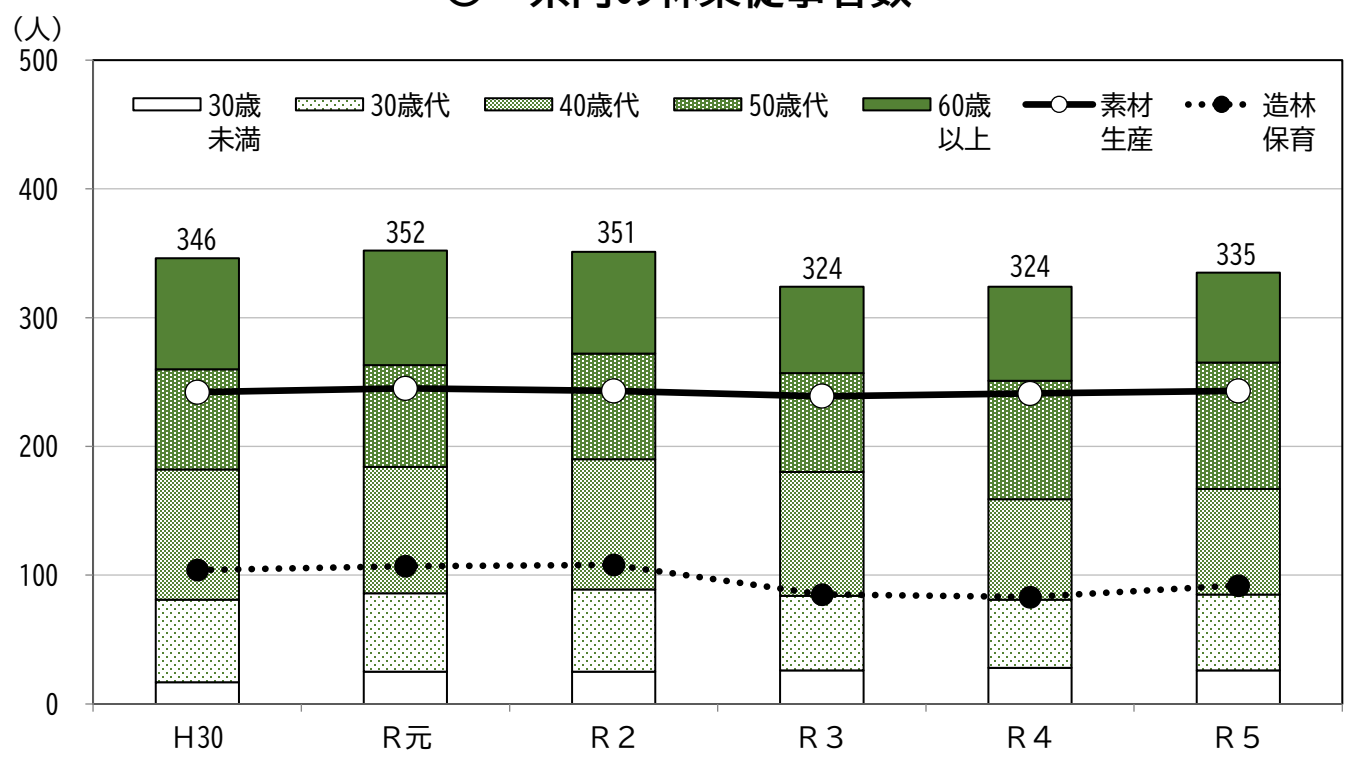
- これまで造林面積は低位で推移していたが、主伐・再造林の推進により近年増加傾向
- 苗木生産者はR 6にて5団体
- 再造林の低コスト化に資するコンテナ苗の県内生産がR 3から開始

○造林面積および苗木生産者の推移

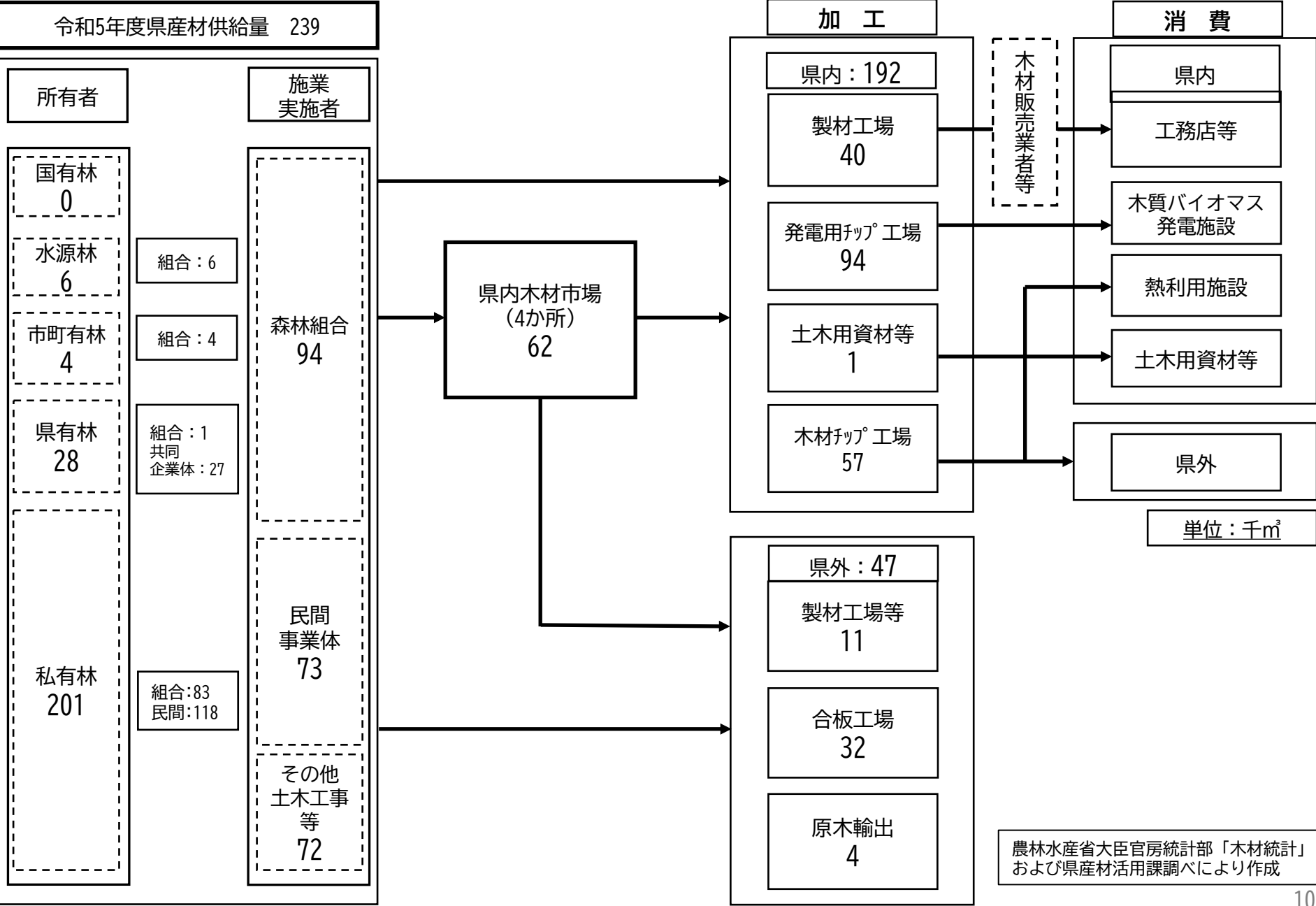


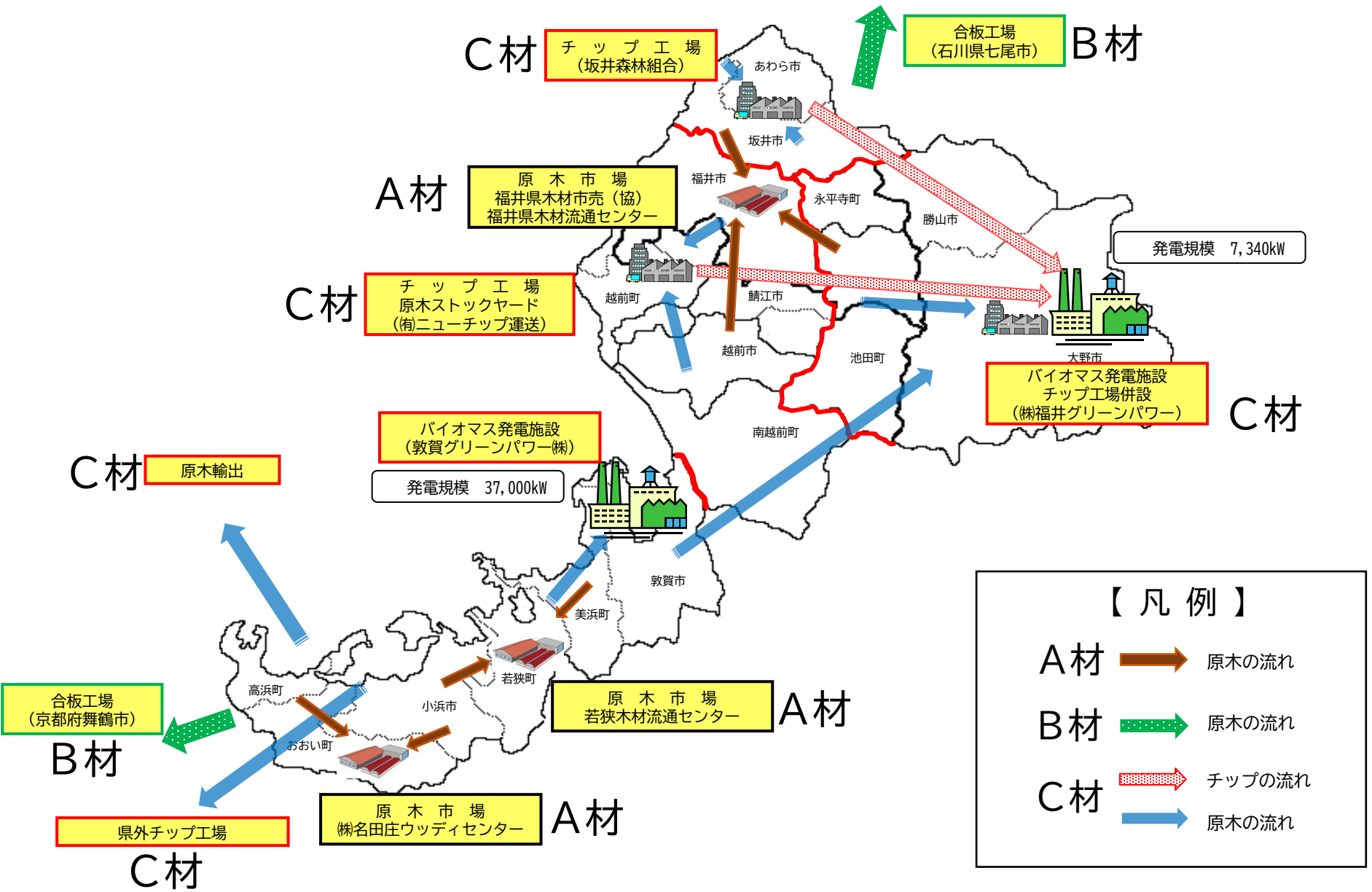
- ・ 平成28年度に開校した「ふくい林業カレッジ」等により一定数（30名前後）の新規就業者を確保
- ・ 令和2年度までは約350名で横ばいに推移していたが、令和3年度には高齢化や身体的負担等の理由から退職者が増え、従事者が減少
- ・ 素材生産に従事する林業従事者は横ばいで推移（242人（H30） → 243人（R5））
- ・ 造林保育に従事する林業従事者は減少傾向（104人（H30） → 92人（R5））

○ 県内の林業従事者数



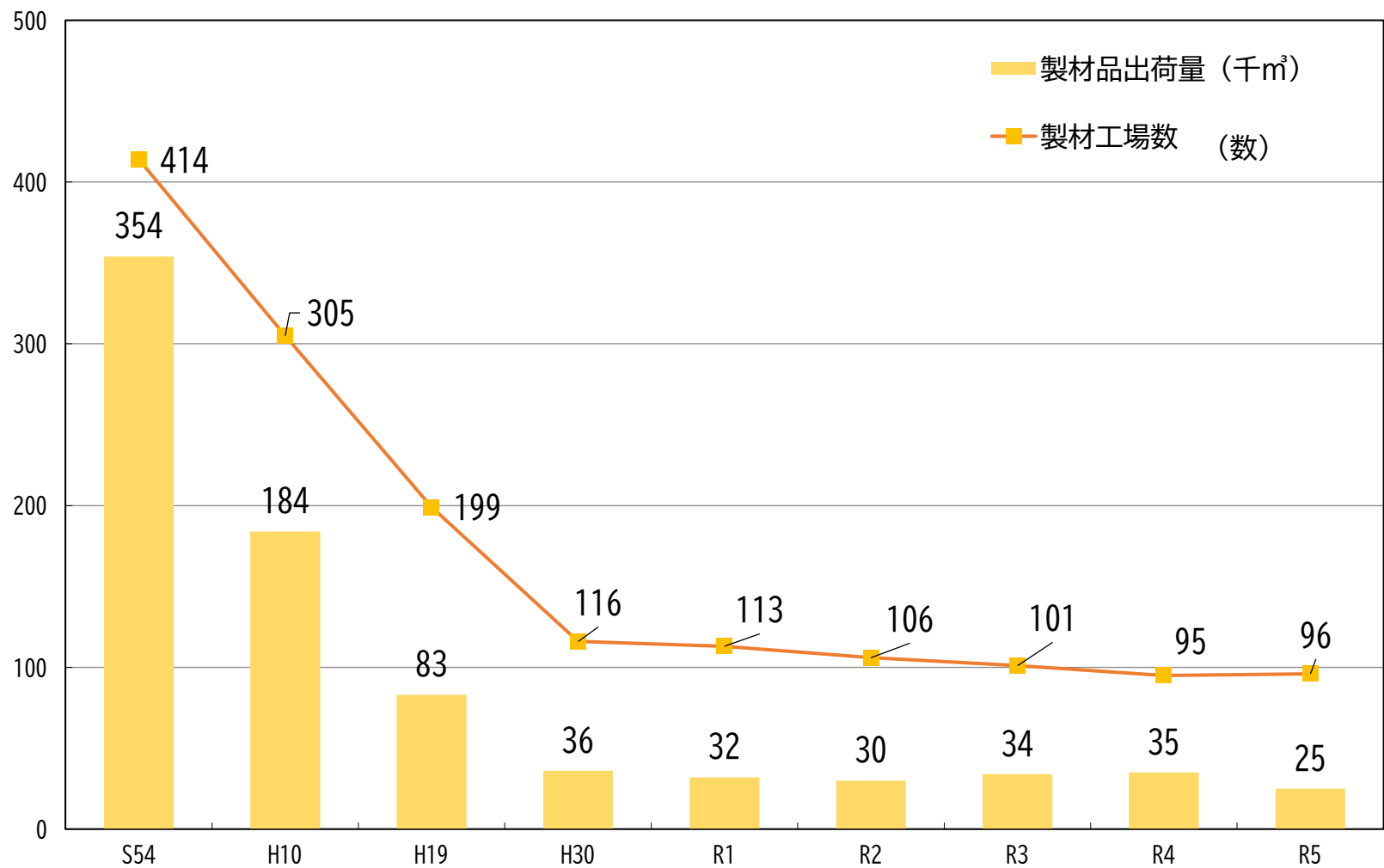
【林業カレッジ研修状況】





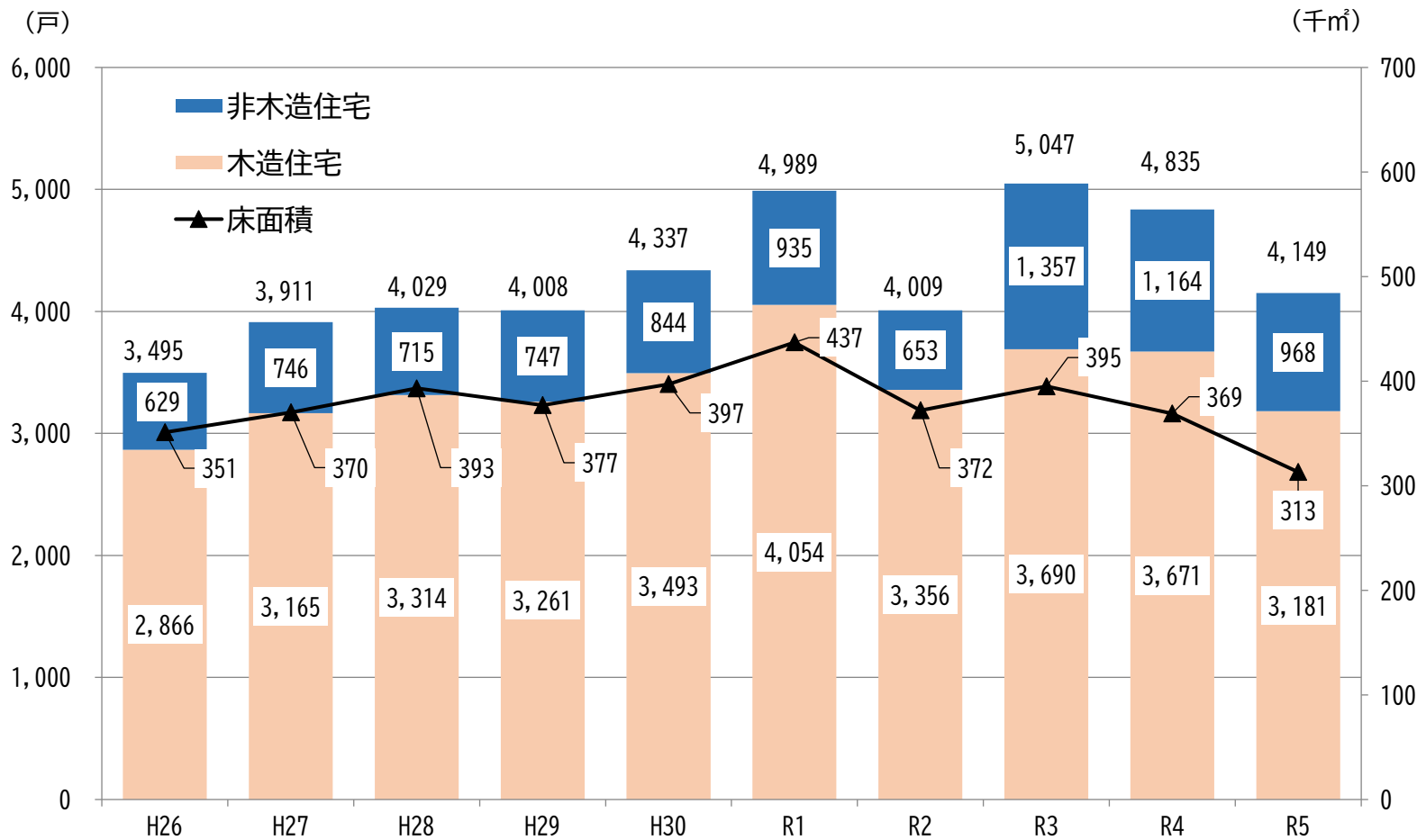
- ・ 製材工場数、製材品出荷量とも年々減少
- ・ 1 製材工場の出荷量は260m³（R 5）で全国平均2,135m³の8分の1であり、小規模零細な工場が多数

○製材工場数・製材品出荷量の推移



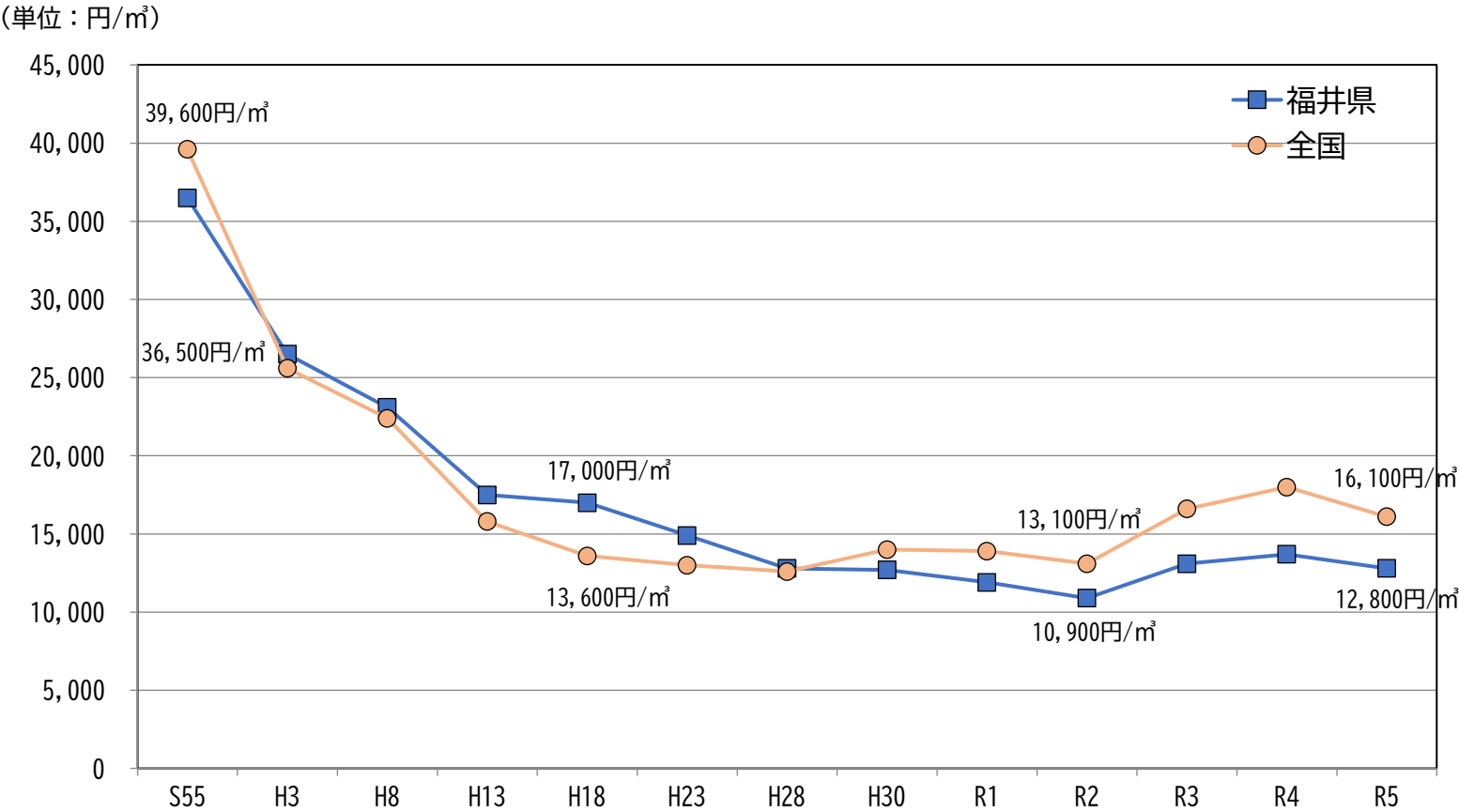
- 近年の新築住宅着工数は減少、木造率は全体の8割
- 近年の木造住宅の床面積も減少

○新設住宅着工戸数および木造住宅の床面積の推移（福井県）



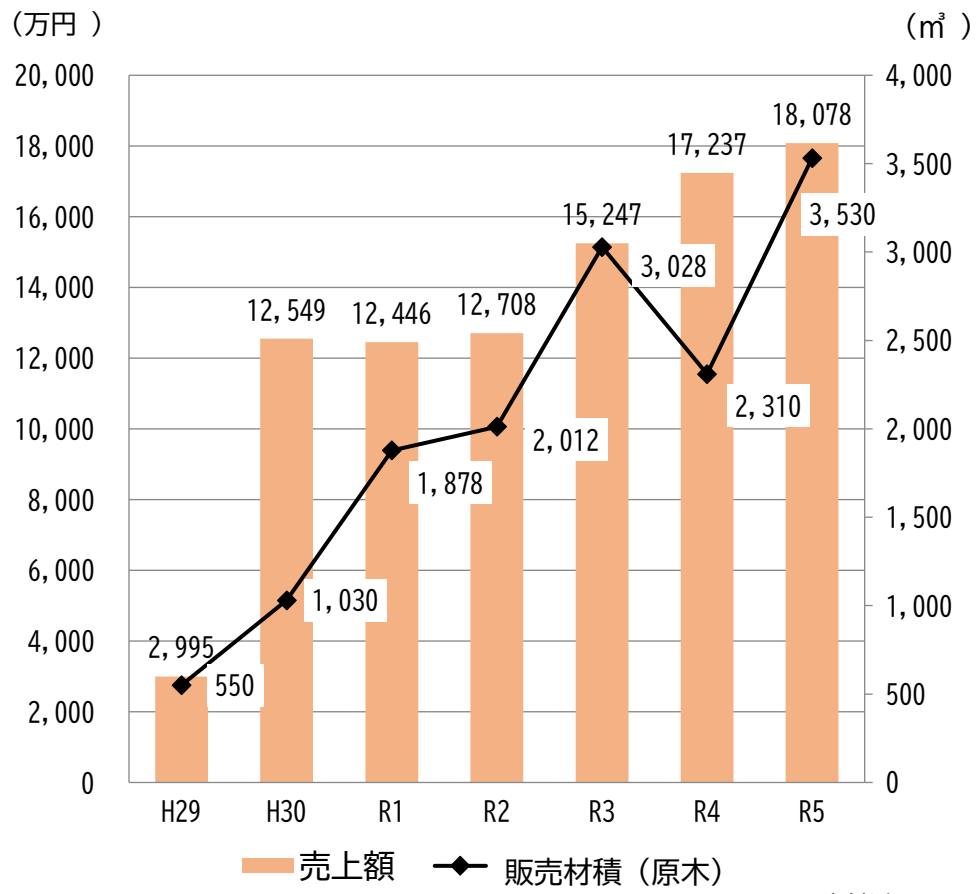
- 木材価格は昭和55年をピークに低迷し、近年は横ばいで推移
- 令和3年以降ウッドショックの影響により価格が高騰したが、現在は下落傾向

○スギ中丸太価格推移（県内4市場平均価格）



- ・ 平成29年度から大規模展示会への出展や商談会の開催などにより都市圏における販路を開拓
- ・ 海外への販路開拓を令和元年度から開始（台湾・インドネシアでの取組み）
- ・ デザイン化した内装材、不燃木材や防腐材など付加価値の高い県産材製品を販売

○県の実績による都市圏等への販売実績



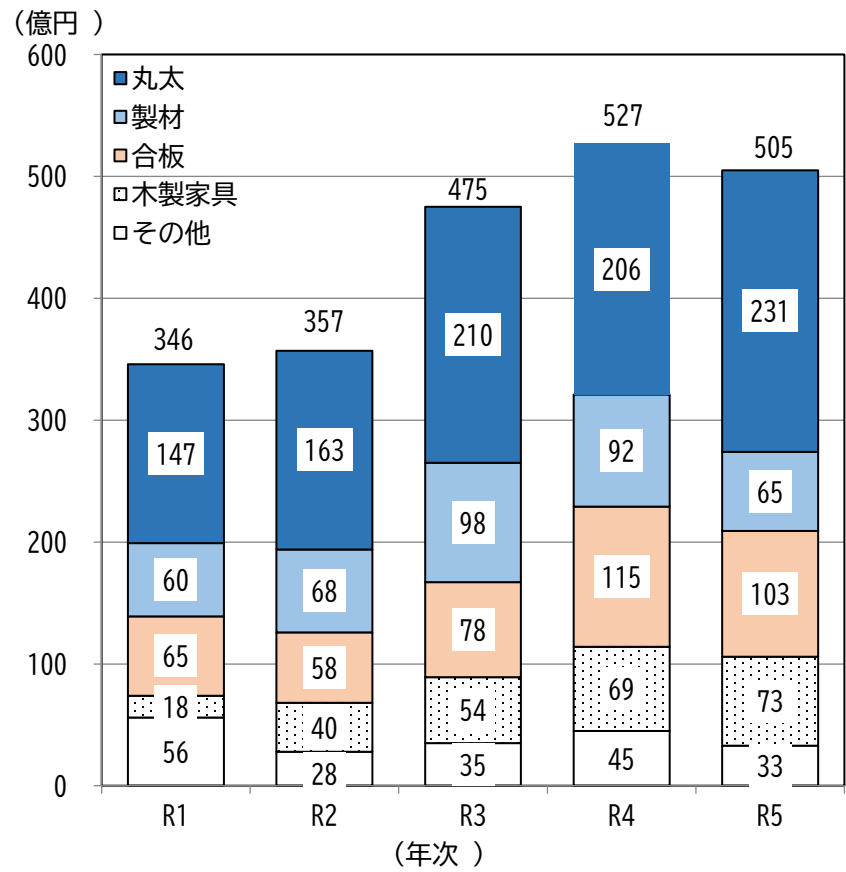
【国際ホテルレストランショー2023出展】



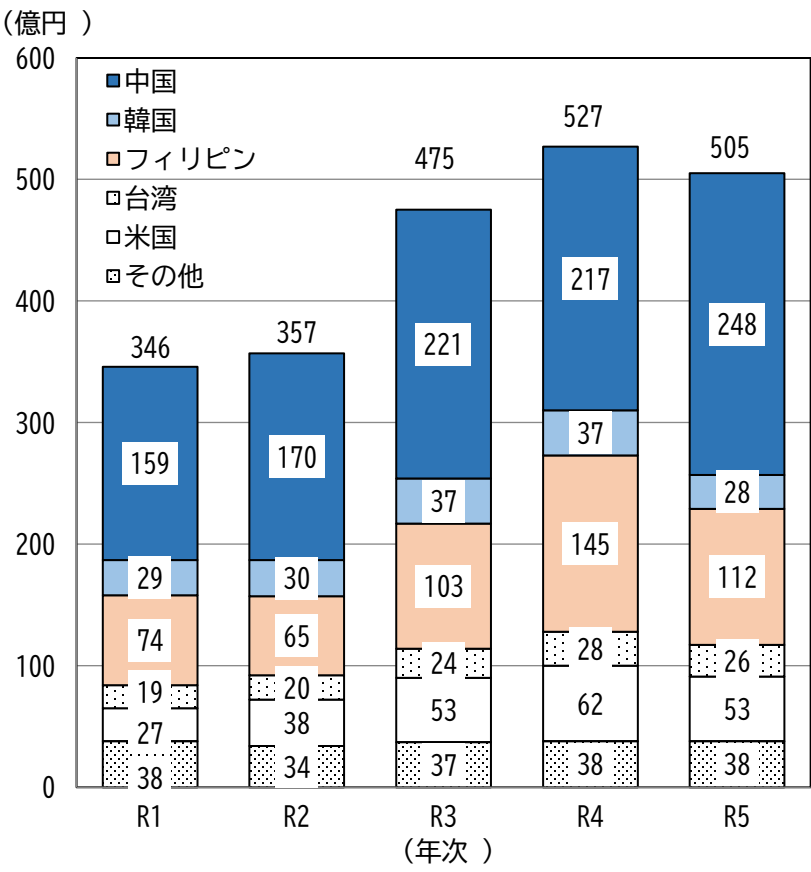
【不燃木材の内装材】

- 日本の木材輸出額は年々増加し、令和4年には527億円、令和5年には505億円
- 品目別では、梱包材や土木資材向けの低価格・低質な丸太が4割以上
- 輸出先国別では、中国・韓国・フィリピン・台湾・米国で9割を占める
- 製材・合板等の付加価値の高い木材製品の輸出拡大と新たな輸出先の開拓が必要

○主な品目木材輸出額の推移



○国別木材輸出額の推移



- 森林の多用な活用による山村の活性化を図るため、トレイルや森林ヨガなどの森林体験を県内各地に広めるとともに、情報発信等による誘客を促進
- 森林空間の利活用のため、森林体験の取組みを検討する団体を対象に研修会等を開催
- 団体同士が情報交換と連携を進めるためのプラットフォーム（フェイスブック）を県で新たに整備
- 若狭町熊川地区にて新たなトレイルコース整備へ支援（R 6 年 3 月オープン）

⇒ 新たな森林活用に取り組む団体（R 2 ～ 5）：13団体

森林体験研修会等の開催



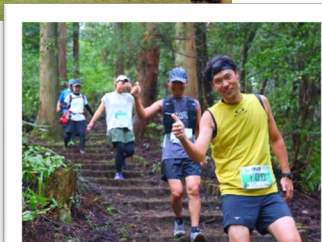
【先進事例研修会の開催】



【現地体験会の開催】

トレイルイベント等の開催

年度	R2	R3	R4	R5
トレイル参加者(人)	70	330	2,794	3,729



【トレイルイベントの開催】

- ・ 地域資源である特用林産物のブランド力強化を図り、県産ブランドきのこの生産（香福茸・九頭竜マイタケ）による販売単価の上昇や、林業遺産認定によるブランド力が向上
- ・ 香福茸の生産や販路拡大のため、飲食店関係者への栽培地見学・試食会の開催や農事組合等に対する新規生産の働きかけを実施

⇒ 特用林産物生産額 H30 : 8億円 → R5 : 8.8億円

〇県産ブランドきのこの生産販売の促進

香福茸



平成27年度から付加価値の高い大型で肉厚なジャンボしいたけ「香福茸」のブランド化の取組みを開始
R5年度は生産量が過去最高を記録
(金・銀・姫 計 276kg)

極上マイタケ



平成29年度から野生菌株の採取を開始し、成分分析や食味試験を経て、令和5年度に最優良種2品種を選抜。
今後は短木栽培に向けて、普及等を実施

〇全国に誇れる特用林産物の生産技術の継承

研磨炭



【平成27年度
林業遺産認定】
漆器の表面研磨などに不可欠な研磨炭の、伝統的な生産技術を継承する唯一の事例で、漆工芸品・金属加工品の製作に無くてはならない研磨用品

熊川葛



【平成27年度
林業遺産認定】
江戸時代から現在まで変わらぬ製法により、技術と品質を現在に引き継ぐ。
熊川葛はくず湯や葛まんじゅうとして親しまれている

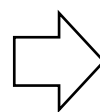
越前オウレン



【平成26年度
林業遺産認定】
高標高地の林床を利用した薬用植物として、希少な栽培地と栽培技術を有し、整腸薬など多くの漢方薬に配合されている

- ・ 近年、局地的な集中豪雨が頻発する傾向が強まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況
- ・ 最近5力年間（R元～5年）県内で新たに治山事業による災害復旧を約140力所、既設治山施設の補修や機能強化を41力所実施
※県内の治山施設数（R5年度末現在）約6,500力所

● 治山事業（山腹工）による災害復旧事例 （令和4年8月 豪雨災）



【山腹工（勝山市野向町横倉）】

● 治山事業（治山ダム工）による流出土砂の捕捉事例



【治山ダム工【リングネット】（福井市蒲生）】

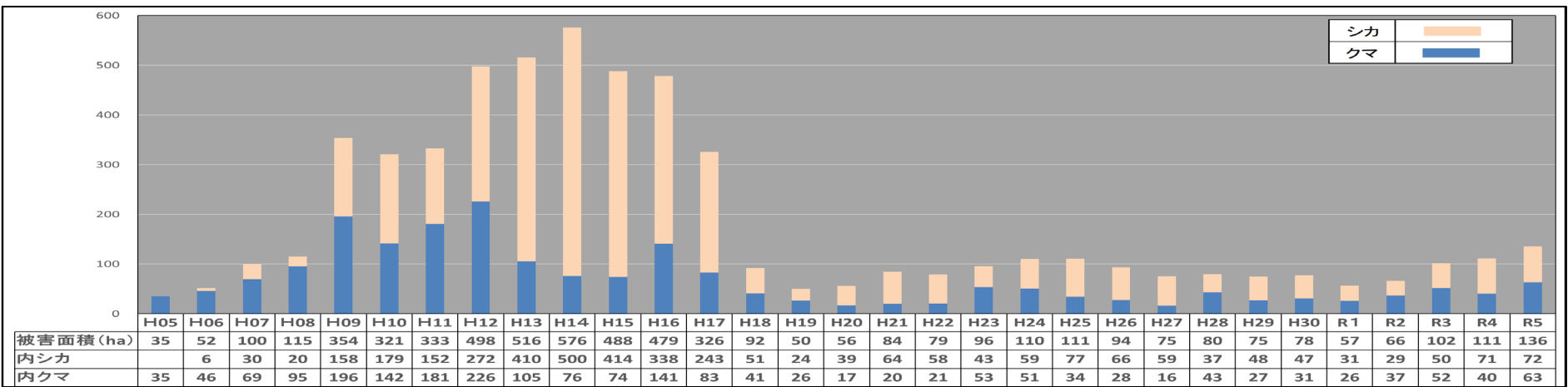
● 治山事業（治山ダム工）施行事例



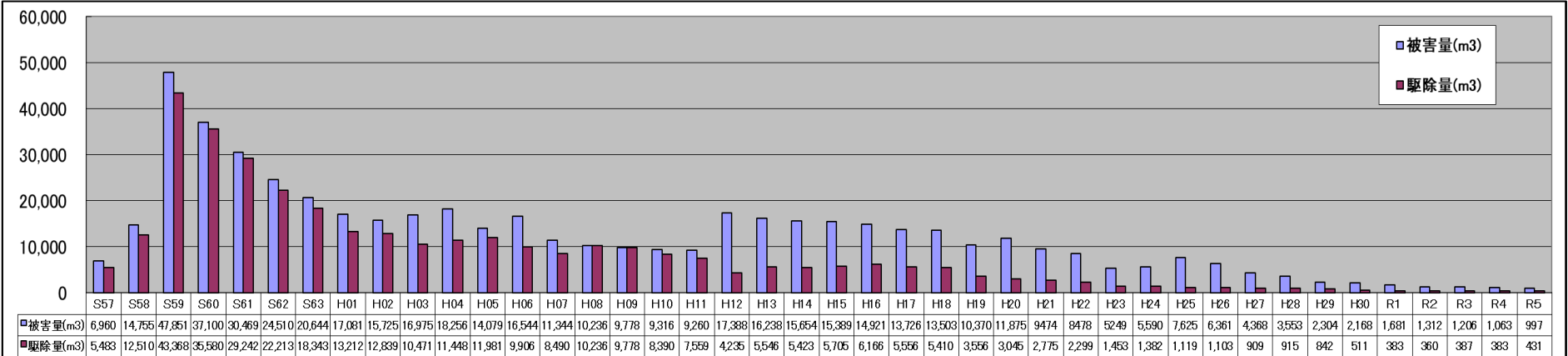
【治山ダム工（大野市角野）】

- ・ 獣害による森林被害の軽減のため森林組合等によるシカ捕獲活動や、松くい虫に対する着実な防除を実施
 - ・ 近年は、獣害による森林被害や松くい虫被害とも低いレベルでの増減を繰り返している状況
- <獣害被害> H14：576ha（ピーク）⇒ R 5：136ha <松くい虫被害量> S 59：47,851m³（ピーク）⇒ R 5：997m³

○シカ・クマによる森林被害の推移

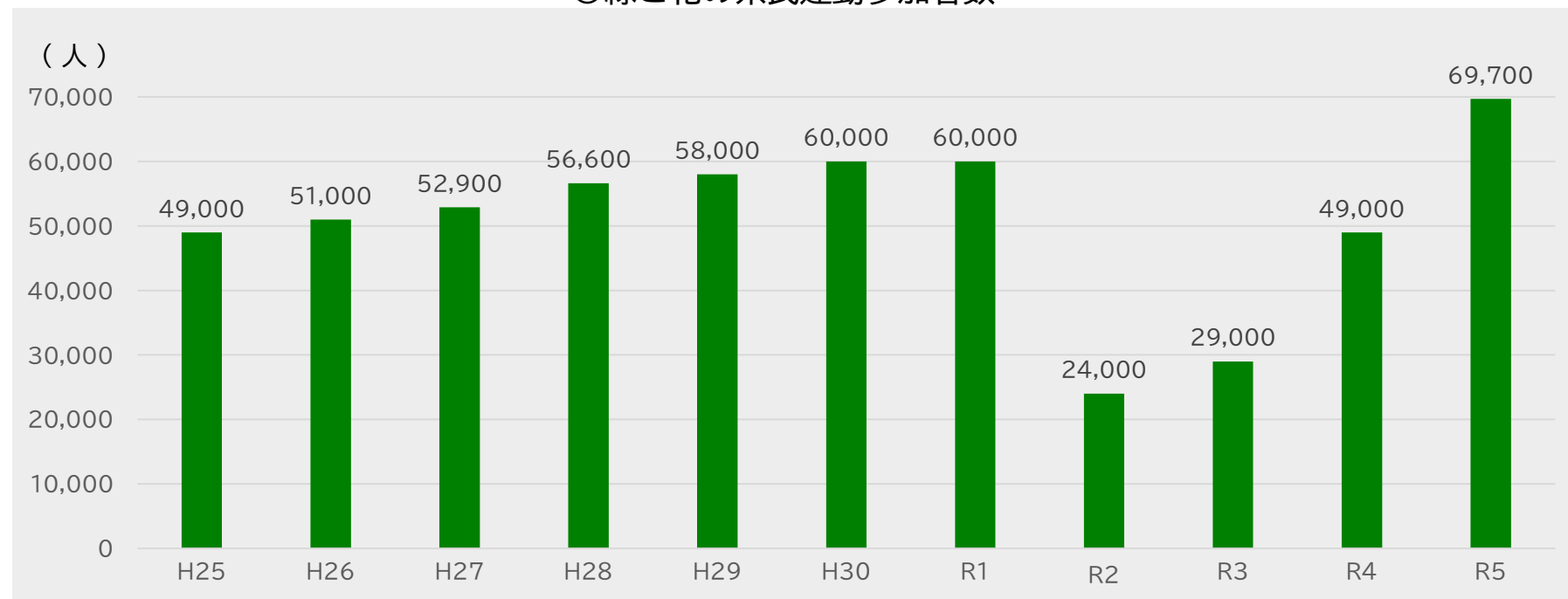


○松くい虫被害量と駆除量の推移



- ・ 全国植樹祭を契機とした緑と花の県民運動が着実に浸透（※R 2～R 4は新型コロナウイルスの影響あり）

○緑と花の県民運動参加者数



森づくり課調べ



緑と花のふるさとをつくる運動



小学生が育てた
花苗の引き渡し式



花いっぱい運動推進員による
花づくり活動



元気な森をつくる運動



企業の森づくり活動



D I Y 体験



自然を知り伝える運動



トレイルランの開催



きのご観察会